

調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670104373
法人名	社旗福祉法人 恵会
事業所名	グループホーム はっぴー
所在地 (電話番号)	鹿児島市下福元町958番地27 (電 話) 099-262-5505
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年4月29日

【情報提供票より】(平成19年3月26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 7 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8(8) 人	常勤	7(7)人, 非常勤 1(1)人, 常勤換算 7.5(7.5)

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(3月26日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.96 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・三宅病院 ・はっぴークリニック ・坂之上生協クリニック ・はまだ歯科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市街地からすこし離れた高台にあり、周囲は見晴らしもよく、緑に包まれ、玄關横には、職員が丹精込めた芝生が植えられてる。天気の良い日は、芝生の上で、職員に見守られお茶を楽しみ、笑顔いっぱいの利用者の顔があり、利用者職員と一緒に野菜畑をつくり、収穫と調理を楽しんでいる。町内会には遠いが、近所の2~3件の住人が、犬の散歩や幼い子どもを連れて、ホームに立ち寄り、猫を戸外のゲージで飼われており、心とます要素が沢山ある。管理者は「ホームケアの質向上には、実践を通じた研修が第一」と研修に力を入れており、職員一体となり、「利用者の思いを聞き、その人らしさを大切に、しっかり寄り添う」と理念に基づくケアを提供している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果から、全職員で改善計画を立て、改善に取り組んでいる。権利・義務の内容を明文化し家族に同意を得ている。ホーム理念をホーム便りに明記して、民生委員等に配布し、利用者と共に派出所・郵便局へも届けている。利用者の栄養摂取管理のため、母体の管理栄養士による試食訪問と献立支援を受けている。注意の必要物品の保管管理に気をつけている。マニュアルを基に緊急時の手当て・感染症予防対策の勉強会を行っている。その他継続的な研修実施、事故報告書の活用、市町村との関わり、地域の人達との交流などについてもそれぞれ計画的改善に取り組んでいる。
重点項目②	自己評価について、「全職員で取り組み、サービスが進んでいくべき方向など分かり、全員でそのことを共有できたのはよかった。」と職員がとらえており、ケアを振り返る良い機会となっている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	市町村代表・地域代表の出席がみられないが、家族代表だけの会議はあり、家族との会議は一方的でなく双方向的な意見が出るよう配慮している。今後は更に運営会議の持つ意味や参加者の役割をもっと理解して、意義ある会へ高めていかれたい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族が意見や苦情を出しやすいように窓口責任者を決めている。これまで苦情というより相談といった内容の事例があり、記録を取り、ホーム内で職員間で話し合い、運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所と近隣町内会が離れており、これまで積極的に町内会に働きかけてきたが、町内会加入について理解が得られていない。すこし遠方だが、小学校の文化祭や幼稚園発表会に出かけたり、美容院・スーパー・八百屋などで買い物し、地域の方との会話や交流を楽しんでいる。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念をわかりやすく明文化し、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、「地域の人との関わりを通して、地域に開かれた家を目指します」を付け加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り、関わりへの振り返りのときにも、理念に必ず触れ、日々のサービス提供場面において理念を反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣町内会とすこし離れていることから、事業所から積極的に町内会への加入について申し入れしているものの、理解されておらず、加入は受け入れられていない。そのような中、すこし遠方の小学校文化祭・幼稚園発表会へ出かけたり、美容院・スーパー・八百屋を利用して地元の人と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で実施し、自分たちの介護サービスが進んでいる方向を確認し、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果を踏まえて、全職員で改善計画を具体的に検討作成し、実践につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーに、地域代表や市町村担当者の参加が得られていない場合が多いが、家族代表を中心に、会議では事業所の活動の報告と参加者からの意見を出し合い、双方向的な会議となるよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者の窓口へは、運営上の課題や事故報告・書類作成などを相談しており、制度改正を含め頻回に関係をとっている。	○	市町村連携として、介護・保健・福祉の関係者の運営推進会議への参加はもとより、更に地域密着型のサービスとして、利用者が地域の一員として生活が継続されるように、市町村のそれぞれのサービスを具体的にどのように利用していけるか等検討が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の状況を報告しており、また、月1回は書面でも報告している。身体的なことは、随時電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談の窓口責任者が明示してある。これまで苦情というより相談といったものがあり、その際は記録をとり、運営に反映できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限度にとどめており、2ユニット間で職員が情報交換をし、趣味活動・レクリエーションを一緒に行い、利用者と顔馴染みとなり、夜勤・緊急時の対応・欠員時に協力できる馴染みの関係を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修年3回、谷山地区グループホームの(認知症)勉強会、で継続的に研修している、内部研修は職員が経験者が少なく、管理者が救急法や緊急時の対応について、想定場面の研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の状況を知ることで、自らの事業所サービスが良くも悪くもよく見えて、改善意欲や問題意識を持つことでのサービスの向上に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族に見学してもらい、管理者が十分に面接相談し、安心して自然に馴染めるよう柔軟に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の経験を生かした趣味や生活の技・文化などを教えてもらったり、優しさに癒されたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望についてよく話を聞いている。自分で思いを伝えられない方については、簡単な質問や表情から察したり、また家族からの情報で把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時を活用して、利用者がその人らしく生活するために、職員からの意見情報も加味して、個別に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の書面の書き換え以前に、ミーティング時に、職員の気づきから利用者の状況を把握し、必要があれば臨機応変に介護計画の変更を行っている。見直しなど定期的なモニタリングは6ヶ月に1回実施している。	○	今後は定期的なモニタリングは、1ヶ月に1回実施できるように取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じて、通院や送迎・墓参りなど必要な支援は柔軟に対応し、医療連携体制加算を受けて、入院の回避・医療処置を受けながらの生活の継続が図られ、個々の満足を高めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始に当たって、利用者のこれまでのかかりつけ医や入居後の主治医について希望を聞き、納得の得られた主治医と連携を緊密にとり、利用者の変化や心配事がある場合など相談し、指示を仰ぐ関係をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	18年4月から利用開始の時点で、利用者と家族の重度化に伴う意思を確認し、覚書を作成し同意をいただいている。その後、利用者の状況変化に応じて、意思の再確認と繰り返し話し合い、覚書を作成して変更に対応している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の生活の様子を撮影した写真が掲載されているホーム便りを、家族以外の地域へ、広報を目的に配布することを家族に了解を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の業務に利用者を合わせるのではなく、利用者の思いやペースに合わせて見守りながら、一緒に生活を送っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせて食事の準備や調理をしてもらい、満足感を持って食事をしながら、食材の味付けなどの意見を出し合っ、さまざまなおしゃべりができて、利用者同士や職員とおしゃべりを活発にして楽しい食事を支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の状態に合わせて、入浴時間・順番・回数を設定しているが、あくまでもそれぞれの利用者の、その日のその時の気持ちに応じている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	大工だった方は、棚や花壇の柵・棚を作っている。裁縫していた方にはパッチワーク、まかないをしていた方には味見など、生活歴を生かしてセンター内での大事な役割をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	19年度は週に1回外出を目標にしており、余程のことがない限り実行している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの実践について十分理解されており、職員は、外出傾向のある方の行動や思い込みのパターンを理解し、見守り・声かけを適切に行なうことで、外出傾向が落ち着いた事例の体験もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回特養と一緒に消火訓練を実施、また職員間では、日頃からいろんな場面を想定して避難訓練を行っている。地域との協力は消防署・警察署との連携に留まり、周辺地域とは離れており、地域の協力を得ることは難しい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を作成し、食事摂取量・水分量の把握をおこなっている。体重測定は毎月1回実施している。また法人の管理栄養士による献立のバランス・栄養面でのアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は天井が高く、明るい。広い廊下の床は道を歩くイメージで長さを感じさせる工夫がある。廊下にはベンチがあり、お風呂から上がった方が腰かけている様子は、とてもいい風景である。玄関外の芝生にはテーブル・椅子が置いてあり、職員と語らいながらお茶を飲んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスはホームで準備しているが、これまで家で使い慣れた個人の持ち物を持ち込んで、利用者の好みや個別性を大事にして、担当職員の支援を得て居心地よく整理・整頓してある。		